

十和田八幡平国立公園

神聖な山々に登り、火山の力で刻まれた穏やかな岸边を臨む

十和田八幡平国立公園は本州北部の奥地にありながらも、東京から新幹線で気軽に足を運ぶことができます。しかし、そこに広がる山々や広大な湖では、全くの別世界が待ち受けています。静寂が支配する風景の下、人里離れたこの地域から一望する日本の原風景は、さながら新天地のようです。豊富なハイキングコースを散策するのもよし。歴史ある参道を辿って神秘的な建造物に出逢うのもよし。

八幡平への登山

静寂の中、この地を生んだ、ある自然現象の壮大さを思い起こさずにはいられないでしょう。公園内で八幡平の南にそびえる成層休火山、岩手山は、溶岩台地の上に静かに佇んでいます。山から続く焼走り熔岩流は、18世紀の噴火が堆積したものです。その地形は、今日私たちが知る日本列島の姿を作り上げた凄まじき力を物語っています。火口の頂上に並ぶ数々の宗教的な彫刻や像を見れば分かるように、目の前に広がるものと同じ地形が、今日まで繁栄を続けてきた独自の歴史や精神文化の基礎を成しているのです。

火山の頂に近づくにつれ、足元に眠る信じがたいほどの力を感じ取ることができるようになります。火山からの噴煙が斜面をゆっくりと漂い、沸き立つ泥水が地面から顔を出し、うっそうとした森や火山からは温泉水が吹き上げています。ここでは、日本人の自然との関係から生まれた独特の文化を感じ取ることができます。温泉は古くから日本特有の入浴文化を形作ってきました。地中奥深くから吹き出す温泉水は多様性に富むミネラル分を含んでおり、その恵みの中で、地域一帯はリゾート地としても活況を見せています。それぞれの温泉水が様々な効能を持つことで有名です。

八幡平から十和田へ

火山と火山の間に姿を見せる原野や沼地を通り過ぎると、次は二重カルデラ湖（火口）として知られる十和田湖に向かいます。十和田湖は国立公園で十和田北部への入り口の役割を果たしています。目前に広がるカルデラ湖。その神秘的なまでの深みが物語るのは、今日まで靈感を与え続ける数々の伝承です。澄み渡った水や岸辺の穏やかさは、湖を取り巻く手付かずの原生林を支配する静寂を暗示しています。湖面を吹き抜ける風が奏でる演奏会。そこに命を吹き込むのは、聖なる湖を故郷と呼ぶようになったヒメマスたちです。

その生命の兆しは、静かな湖の雄大さと対比されることで、より一層強い感動を生み出します。まるで本州北部の奥地に初めて足を踏み入れた開拓者たちに課された、厳しい試練のように。十和田湖を取り巻く小丘には、歴史ある参道への入り口として、神社が佇んでいます。凶暴な力によりこの地をかつて支配した八頭の大蛇。その退治にまつわる神話は、過酷な火山の地形を乗り越えて湖まで行き着いた先祖たちの受難を、見事なまでに象徴しています。

十和田湖を後にして

旅の精神に魅了された者を迎えるのは、十和田湖の北に広がる山々。川の間にはひっそりと佇む無数の温泉や町が、一日の疲れを癒やしてくれます。独自の入浴文化を讃える温泉から湧き出る水は、治癒効果を持つことで知られます。温泉を包む安らぎの雰囲気は、ここ何世紀も変わっていません。

人里離れたこの地が一年を通して見せる平穏な姿は、季節の変わり目に劇的な変化を遂げます。冬には国立公園全体が厚い雪で覆われ、絵画のような雪山を背景に、スキーやスノーボードなど、ここならではの様々なウィンタースポーツを楽しむことができます。オフピステスキー（バックカントリースキー）で手付かずの自然を探索するのもよし、自然の中でのんびりとした一日を過ごすのもよし。一日の終わりには地元で親しまれる鍋料理に舌鼓を打ち、雪原を望む露天風呂に身を浸しましょう。

雪道で出逢った、もてなしの温もり

春先には、東北地方を特徴づける「不屈の精神」を体現するかのように、新緑のつぼみが低地を覆い尽くします。夏には雪が解けた山頂にまで達し、やがて秋に入ると、豊かな緑が紅葉に彩りを加えます。散歩道や険しいハイキングコース、十和田湖のきらびやかな水面を行く観光船やカヌーなど、年間を通して様々な方法で壮大な大地に魅入ることができます。

神秘的な頂や深淵に宿る龍と神々を讃える伝承、そして素朴な魅力。十和田八幡平国立公園を巡る旅を織りなすのは、ときには活気を見せ、ときには静寂を守る、その対比的な美しさです。そこからは、悠久の時の中でこの地を形作ってきた火山の力を見出すことができるでしょう。噴火で生まれた山々の絶景や穏やかな湖、一年を通して楽しめる屋外スポーツ、宗教の旅、豊かな伝承、快適なリゾート。数々の魅力が観光客を十和田八幡平国立公園に導いています。